

新しい 生き方

パラレルキャリア

クラウドファンディング

クラウドソーシング

コワーキング



21世紀の
キーワード
それは自身の
アップデートだ

はじめに

今、私は本を書いている

そう、今あなたが読んでくれているこの本を書いている

私は、作家でもなんでもない

しかし今、本を書いている

書いている場所は、STARBUCKSコーヒーだ。

スタバの無料WiFiを利用させてもらい、インターネットを使用し
ノートパソコン1つで、本を書いている。

本といっても、電子書籍だ。

誰でも無料で電子書籍を簡単に作成できるサイトを使わせてもらって書いている。

そして、このサイトを使ってできた電子書籍をそのまま世の中に発売できるというわけだ。

私は作家でもなんでもない

しかし、面白いので

本を書いてみることにした。

世の中はすごいスピードで進化してきた

私は現在28歳で

この本を書いている、今日は2014年3月20日

STARBUCKSでパソコン1つを使用し、自分が本を書くなんて

今日まで、まったく想像していなかった

そう、私が生まれてから28年間、世の中はすごいスピードで進化してきた。

私が生まれたのは20世紀の後半

20世紀、日本は終戦、敗北という大きな経験をした

そして、そこから日本は奇跡的な復興を遂げた

高度成長期を経て

焼け野原で何もなくなった所からの、世界第二位の経済大国への成長。

そして、20世紀は「バブル」というクライマックスを迎える。

そんなクライマックス、バブル元年の1985年に私は生まれた。

1991年にバブルが弾けるまでの、その間に昭和から平成に変わった。

そして、20世紀もいよいよ終わりに近づいた1995年

世の中にとんでもないものが登場した

Windows 95の登場だ

私は、このWindows 95の登場こそが21世紀の世の中を予告するものだと思っている

Windows 95の登場により、パソコン、インターネットが一気に広がりだすことになる。

そして、1999年

20世紀最後の年に

NTTのiモードというサービスが登場した

これにより、当時爆発的に普及していた携帯電話で

インターネットが使えるようになった

そう、「モバイル・インターネット」の登場だ

そして、この「モバイル・インターネット」の登場以降

世の中が大きく変わり始める

そんな、「モバイル・インターネット」とともに21世紀は幕を開けた。

この本では、私が生まれてからの28年間を振り返りながら、これからの、
21世紀の生き方について、私の思うことを簡潔にまとめてみることにする。

第一章 革新的なモノが次から次に登場した20年

私は、小学生に入学するよりも以前から、テレビゲームで遊んでいた

まずは、ファミリーコンピューターだ

ファミコンでよくマリオやロックマンを楽しんだ。

そして、よく家族とケンカした

ファミコンのケーブルに足を引っ掛けられ、画面が消えてしまったことや、近くを歩いた、その振動により画面が消えてしまうなど

ファミコンがなんらかの形で、妨害されることが原因で毎日のようにケンカになる。

今日、生まれてきた人にはまったく想像できないことだろう

あの、ゲーム画面が消えた時の悲劇の悲しさは。

そして、小学生に入学すると同時くらいに、スーパーファミコンが登場した

私はスーパーファミコンに夢中になった

夢中になりすぎて、よく親に叱られた。

特に、マリオやドンキーコングは凄まじい集中力でプレイした。

凄まじい集中力がどれくらいかって？

血尿がでるくらいだ。

それほどまでに、スーパーファミコンは楽しかった。

スーパーファミコンの一番の思い出といえば

「ふーふー」だ

カセットを挿して、電源を入れても画面が映らない時がある

そんな時は、カセットを取り出して、挿入部分に「ふーふー」と息を吹きかける

そうすると、映るのだ

今思えば、面白い光景だ

これも、今日生まれた人には想像できないだろうな

あの、「ふーふー」している時に感じる、ちょっとした不安感

映るよな、この「ふーふー」で映るよな

そう、思いながら

任せろとばかりの笑顔でする「ふーふー」

映った時のドヤ顔。

私の中で、いや、多くの人にとって革新的なゲームになった

ポケットモンスター

ここから私は、ゲームボーイにのめり込む

これは、最高に面白かった。

集める

育成する

戦わす

そして、交換する

このポケットモンスターというゲームは、もう他のことがまったくできないくらいに面白かった

どれくらい面白かったかって？

聞かないでくれ

血尿がでるくらいだ。

ちなみに、私は「赤」を購入した

リザードンに進化した時の感動は今でも、忘れられない。

くるか

くるか

きた——

リザードン！（どーん！）

ポケモンの感動は、今日生まれた人とも共有できそうだ

まさか、あの当時

ポケモンがこんなに長く続くなんて思ってもみなかった。

さらに、21世紀が始まる2000年には

圧倒的に革新的なモノが登場した

それは「プレイステーション」だ

これは、信じられないくらいに圧倒的だった。

まず、ソフトがディスクに変わった

信じられなかった。

プレイステーションは、本当に面白くさらに私はゲームにのめり込んでいった

どれくらい面白いかは、もうご察しの通りだ

しかし、こいつはマジでやばかった

血尿どころか、私を不登校へと導いた

それほどまでに、プレイステーションは圧倒的な存在だった。

そして、さらに

携帯電話が信じられないスピードで進化する

iモードが使えるようになり、1 6和音、3 2和音の着メロダウンロード

あれは、楽しかった

友達と、着メロに夢中になった

携帯電話に夢中になっていた頃

自宅にインターネット環境が整った

しかも、ADSL回線による高速インターネットだ

ここから、私の小さな世界が一気に変わっていく

様々な情報が手に入る

そして、同時にあらゆるものがインターネットにより発展していく

携帯電話もインターネットとともにどんどん進化した

携帯電話は買って買って古くなり

次から次に新しいモノが登場した

よく覚えているのは、ドコモから登場した

Nシリーズの「パカパカ携帯」だ

あれは、かっこよかった。

そしてこの頃、Yahoo!JAPANと出会う

私はさらにインターネットを使うようになっていった

そんな、私は20歳を迎えようとしていた。

20歳を迎えた私は、自動車の整備士として就職した

何も疑うことなく

就職した

勉強を頑張って、手に職つけて、いいところに就職するように

親や、学校の先生はそう教えてくれた

私は学校の勉強ができなかったので、整備士という手に職をつけるという道を選択した

資格があれば、食っていけるから

そう教えてもらった

そして、就職し、社会人としての人生がスタートした

楽しかった

仕事は楽しく、自分のスキルの成長を感じると嬉しかった

しかし

私は、なぜか悶々とした日々を過ごしていた

本当にこれでいいのだろうか

先輩達は、会社のことを悪く言う

通勤電車には、しんどそうにしている人がたくさんいる

私は、このままこの会社で働くべきなのか

わからない

続けることを、周りは進める

しかし、その半面多くの人が飲みに行くと会社や人の愚痴や悪口を言う

私はわからなくなってきた

しかし、仕事に行けばそれなりに楽しい

しかし、10年先、20年先のことを、ふと考えたりすると

また、悶々としてくる

わからない

私はどうすればいいんだ

そうこうしている間に、世の中は不景気になっていった

そして、仕事が減っていった

そんな状況が、私を変えた

私は世の中に興味を持つようになったのだ

オレはこのままでいいのか？

親や学校の先生が教えてくれたようにやっていて、この先
本当に大丈夫なのか？

これからの世の中はいったいどうなっていくんだ

整備士、自動車業界

これらに、オレは執着しているんじゃないか？

なぜ、執着する？

高い金払って、時間かけて勉強してきた

それらが無駄にしたくない

そういうことか？

もしも、今から全然違う業界に自分がチャレンジするとなると
どうなるんだろう

周りの人は、反対する

しかし、本当に周りの人が言うようすることがいいことなのか？

もちろん、自動車業界でもやっていけるはずだ

しかし、オレはただ、飯を食うために、この業界に執着してしまっているんじゃないか？

もし、そうなら

本当にそれでいいのか？

私は毎日、考えた。

考えるようになった私は、これからの社会を

未来を考えるようになる

世の中は誰が見ても、これからはインターネットの時代

インターネット業界にチャレンジするほうがいいんじゃないか？

いろんなことを考えた

しかし、答えは

わからない

そして、私は整備士を辞めた

私はとにかくいろいろな仕事をしてみることにした

そして、転職を繰り返す

おかげで

履歴書は真っ黒だ

私は、様々な仕事をした

そして、その間、インターネットは物凄いスピードで進化した

そんなある日、私の脳みそに電撃が走る

「ソーシャル・ネットワークサービス」というものを知った

そう「mixi」だ

これは、すごい

とにかくすごい

いろんな人と、常に繋がっている

さらには、いろいろな人に出会える

なんだこれは

面白すぎる

面白いという次元ではない

こんなものが、今後世の中にはどんどん登場してくるのか？

これは、個人の可能性が広がる時代がくる

そう確信した

そして、また革新的なモノが登場した

スマートフォンだ

スマートフォンの登場によりインターネットがさらに身近になった

「モバイル・インターネット」

これからの時代は、間違いなくこれだと確信した

第二章 「みんなが使えるインターネット」

21世紀はインターネットで間違いないと確信した私は

自分がインターネットを使って何ができるか考え始めた

しかし

私は、プログラミングなんかできない

英語もまったくわからない

インターネットだといっても、何もできない

そう

私は、インターネットに関することがまったく何もできないのだ

それから、悶々とした日々が続く

インターネットで間違いない

しかし、何もできない

悔しい限りだ

しかし、何もしないわけではない

人脈づくり

自分磨きに妥協はない

できる限りのことはした

必ず、チャンスがくるはずだ

何も根拠はない

しかし

必ず、チャンスがくる

その時まで、今できることを

目の前のことを一生懸命にやる

そして、今

2014年

ついにチャンスがきた

2014年の現在、私はチャンスがきたと思っている

この2, 3年のインターネットの進化は今までと少し違う

スピードも驚異的だが

それよりも、インターネットが

「みんなが使えるインターネット」になってきたのだ

そう

私でも、インターネットの力を十分に使える

そんな、時代になってきたということだ

そして、現在

私は気づいたら、仕事のほとんどをインターネットを使ってやるようになった

リアルとインターネットがいよいよ、1つになってきた

私はそう感じている

世の中には本当にすごい方がたくさんいる

その方達のおかげで

私でも、インターネットを使って仕事ができる。

ただ、検索するだけでなく

仕事ができるのだ

そして、この2, 3年の間に様々なモノが登場した。

様々なスマートフォン

WiFi

ハイスペックなノートパソコン

ハイクオリティなアプリケーション

動画撮影、動画編集、動画投稿

YouTube

Skype

ツイッター

Facebook

アメーバブログなど、ブログサービス

言い出すとキリがないくらいに、この2, 3年で世の中のインターネットは変わった

これぞ、革命

だれでもがインターネットを使って様々なことができる

そして、私は確信している

今からの5年間で

世の中は

劇的に変わる

そして

「働き方が変わる」と確信している

しかも、5年でだ。

第三章 「パラレルキャリア」という新しい生き方

働き方が変わる

いや、働き方という小さな概念ではなく

「生き方」そのものが変わると言ったほうがいいかもしれない

「パラレルキャリア」

という言葉聞いたことがありますか？

以下は、ウィキペディアの一文をそのまま引用させてもらった

パラレルキャリアとは

パラレルキャリア（英語：parallel career）とは、[ピーター・ドラッカー](#)が著書『明日を支配するもの』等にて提唱しているこれからの社会での生き方のひとつ。現在の仕事以外の仕事を持つことや、非営利活動に参加することを指す。

これが、「パラレルキャリア」という新しい生き方だ

さらに興味深い説明があるので、こちらも引用させてもらう

ピーター・ドラッカーの著書によると、歴史上はじめて人間の方が組織よりも長命になったために、人は組織のみに頼らず、それとは別に第2の人生を始める必要が生じたという。その第2の人生のひとつが

パラレルキャリアである。

近年のパラレルキャリアの論調は、軸足はあくまで本業の会社におき、社外活動であっても何らかの形で本業に結びつけることを意識し、社外との関わりを作ることを指す場合が多い。この点が、本業と全く関係ない仕事を時間外に行う副業と異なる点だ。

さらに、ドラッカーはこうも言っている

パラレルキャリアを推奨することで、企業は従業員の教育コストと時間を省いて従業員に新たなスキルを習得させることが可能になる。

そう、企業が社員にパラレルキャリアを奨めるようになるというのだ。

第四章 土日サバンナという提案

実は私は、今まで「土日サバンナ」という活動を提案してきた

あえて、会社や学校を「動物園」と呼ばしていただく

「土日サバンナ」とは

土日の自分の時間はサバンナで自由に好きなことをしよう

(もちろん土日だけでなくもいい、イメージしてもらいやすいように、あえて土日になっている)

そういう活動だ。

そして、その活動の経験を仕事にも活かそうといったものだ

そう、「土日サバンナ」＝「パラレルキャリア」なのだ

そして、「土日サバンナ」の提案を続けていると協賛してくれる方がたくさん現れた

私は、思った

これからの時代は、ドラッカーの言うように「パラレルキャリア」のような生き方が

当たりマエとなる

1つのキャリアではなく、様々なキャリアをもつ人が増えていく

そして、多くの方がそれを求めている

私は強くそう思うようになった

そして、パラレルキャリアがこれからアタリマエになるとさらに強く思うようになるのに時間はあまり必要なかった。

私は、「土日サバンナ」という提案を続けた

私の周りに、どんどん「土日サバンナ」を求める人が集まりだした

「土日サバンナ」は求められている

ということは、やはり「パラレルキャリア」は間違いない

そして、私は「土日サバンナ」の活動を通して

たくさんの人と関わった

そして気づいたことがある

ほとんどの人は

「自分が何がしたいのかがわからない」ということ

さらに、やりたいことがあっても

自分一人ではできない

進まない

そして、多くの人が挫折してしまうということを身を持って知った

挫折する人の多くは

パラレルキャリアでやりたいことがある

しかし

お金がない、そう資金面で挫折する人が多かった

こんなことを言うと

自己実現されている方に、それを乗り越えるんだよ

と怒られそうですが

私は、挫折するのは普通だとおもった。

ネガティブでもなんでもなく

現在は不景気で銀行からの融資もなかなか難しい

多くの人々が、携帯電話をもち、多くの人々が一人暮らしをしている

これだけでも、固定費が結構かかる

税金、年金等の支払いもどんどん上がる

クレジットの支払いもあるだろう

今の世の中は普通に生きていくと結構お金がかかる

もちろん、それも我慢すればいい話だが

あんまり我慢していたら、付き合いももてないし

なにより、せっかく物質的に豊になった今の世の中を楽しめない

さらに、問題は仕事にほとんどの時間を使ってしまうということだろう

仕事も長いのに、通勤時間も結構かかったりする場合も多い

そんな、中で

さらに、自分のやりたいことをやるとなると

結構、勇気が必要で

多くの方は、途中で挫折してしまう

これを根性論で乗り越えろ、なんとかしろというのは、私は古い価値観だと思っている。

挫折することが現実的だと思っている。

しかし、だからこそ私は「パラレルキャリア」を推奨する

多くの方が、自分のやりたいことをやる

それに勝る社会はないと思っているからだ。

第五章 プロジェクトをもつようになる

「プロジェクト」これがキーワードになる

私は、やりたいことをプロジェクトにしてきた

やりたいこと＝アイデアだ

そして、このアイデアを持っている人はたくさんいる

問題は、このアイデアをデザインすることができない人が多いということだ

アイデアをデザインし、1つのプロジェクトにする

この、デザインすることがなかなかできない

そして、デザインされたアイデアはプロジェクトとなる

プロジェクトになれば、周りも応援しやすい

アイデアのうちは、形がなく、ゴールがわかりにくい

だから進まないのだ

プロジェクトになれば、何がしたいのかが明確になる

ゴールが見えるのだ

そうすると、協力してもらいやすいし、自分も発信しやすい

その結果

プロジェクトは達成される可能性が高まるということだ

そして

やりたいことができた、叶ったとなるわけだ

これが私の考えだ

だから、やりたいことをプロジェクトにすることが大事だと私は思っている

そしてこれから、多くの人々が「パラレルキャリア」という生き方を選択し

多くの人々が、「自分のプロジェクトを持つようになる」

さらに、多くのプロジェクトに関わり、協力することになる

私はそういう社会になることを期待している。

そして、そうなると確信している。

そう確信した根拠がいくつかある

まずは、やはりインターネットだ

インターネットがこれからどんどん身近になり

インターネットとリアルがどんどん融合していく

そして、新しいインフラがどんどん生まれてくる。

第六章 新しい3つのインフラ

新しいインフラの1つが

「クラウドファンディング」

だ

クラウドファンディングについては、ウィキペディアを引用させてもらう

クラウドファンディング（[英語](#)：crowd funding）とは、不特定多数の人が通常インターネット経由で他の人々や組織に財源の提供や協力などを行うことを指す、群衆（crowd）と資金調達（funding）を組み合わせた造語である。

少しわかりにくいので私から簡単に説明させていただく

要するに

あなたが、なにかやりたいと思った時

それをプロジェクトとしてまとめる

そして、（クラウドファンディングが誰でも自由に行えるサイトを使い）
あなたはプロジェクトに必要な資金を多くの方から集めることができるということだ

これにより、資金調達での悩みは解消される

多くの人に共感してもらえるような、プロジェクトを作り
サイトを使い、発信するだけだ

もしも、世の中の多くの人が共感してくだされば、資金は集まる

というわけだ。

実は、このクラウドファンディング

アメリカでは、大成功している

2012年、アメリカのクラウドファンディング市場は前年比81%増しの27億ドルと言われている

さらに、100万人以上の人々が資金提供したという。

2013年には50億ドルを超えると予想されている。

驚くべきは、わずか24時間で2億円を超えるような資金調達に成功した例もあるということだ。

日本も徐々に、このクラウドファンディング市場が成長してきている。

市場規模はまだまだ小さいがその伸びしろは大きい

大阪府は、府がクラウドファンディングに力を入れている

こういうことから、少し時間はかかるかもしれないが、クラウドファンディングが

日本のインフラとして定着することを期待している。

この、クラウドファンディングを使えばプロジェクトを資金調達で挫折するという

いいわけはできなくなる

クラウドファンディングを使えば誰でもが

資金調達できる可能性があるということなのだ

この、クラウドファンディングの可能性は多くの人
プロジェクト実現に貢献し、多くの人をパラレルキャリアへと
導くだろう

私は日本の教育に、早くクラウドファンディングを取り入れるべきだと思っている

このクラウドファンディングをインフラにするには、日本人に

「投資」という概念そのものを教育することが必要だと思っているからだ。

実は、私自身もこのクラウドファンディングで資金調達し、仲間とたくさんの
プロジェクトを進めていこうと考えている。

2つ目の新しいインフラがクラウドソーシングだ

私は、このクラウドソーシングを新しい日本のインフラとしてかなり期待している

この、クラウドソーシングがこれからの新しい働き方に大きな影響を
与えるのは間違いないからだ。

クラウドソーシングとは

ウィキペディアを引用させてもらう

クラウドソーシング（[英語: en:crowdsourcing](#)）は、狭義では不特定多数の人に業務を委託するという新しい雇用形態。ウェブサービスのトレンドの一つでもある。群衆（crowd）と業務委託（sourcing）を組み合わせた造語。

これは本当にすごい

インターネットの、利点を最大限に使っている

私はそう感じている。

要するに

あなたが何か、プロジェクトを立ち上げたとする

しかし、例えば

ホームページが作れない

ロゴがなかなか思いつかない

そんな時

クラウドソーシングを使うと、他人がその仕事をしてくれるということだ

しかも、その仕事に対しての費用を支払うだけですんでしまう

さらに

クラウドソーシングのサイトを使用すれば

あなたが、頼みたいことをサイトに発信するだけで

多くの人から、仕事の見積もりや、ロゴ案が届く

あなたは、あなたの気に入った方に仕事を依頼できる

人を雇用しなくてもいいというわけだ。

さらに、逆から考えてみてほしい

会社に務めなくても

効率よく

仕事を自分で選んでやっていけるということだ

通勤時間も必要なくなるかもしれない

私は、このクラウドソーシングを使えば、多くの人がパラレルキャリアとして自分のプロジェクトを進めていけると思っている。

クラウドソーシングは、自分が仕事を依頼するのももちろん

自分が、パラレルキャリアとして仕事を受けることもできる

しかも、クラウドソーシングのできる仕事は多種多様

あなたが、あれもこれも出来る人にならなくても大丈夫ということだ。

例えば、あなたがロゴの作成を依頼するとする

そうすると、あなたのもとにたくさんのロゴ案が届き、

あなたは、その中から気に入ったロゴを選び、そのロゴの製作者に

代金を支払えばいいということだ。

見積もりを依頼し、その中から選んで仕事を依頼するということも可能だ。

さらに、膨大な単純作業の仕事などなら、同時に多くの人に依頼すること

で時間の短縮もできるだろう。

クラウドソーシングが、今後働き方に大きな影響を与えることは間違いない。

そして、働き方だけでなく

生き方そのものにも影響をあたえるだろう。

私はそう思っている。

3つ目の新しいインフラ

それは、コワーキングスペースというものだ

コワーキングスペースとは

ウィキペディアを引用する

コワーキング（Coworking）とは、[事務所](#)スペース、会議室、打ち合わせスペースなどを共有しながら独立した仕事を行う共働ワークスタイルを指す。一般的なオフィス環境とは異なり、コワーキングを行う人々は同一の団体には雇われていないことが多い。^[1]通常、在宅勤務を行う専門職従事者や[起業家](#)、[フリーランス](#)、出張が多い職に就く者など、比較的孤立した環境で働くことになる人が興味を持つことが多い。^[2]

コワーキングは独立して働きつつも価値観を共有する参加者同士のグループ内で社交や懇親が図れる働き方であり^[3]、コスト削減や利便性といったメリットだけではなく、才能ある他の分野の人たちと刺激し合い、仕事上での相乗効果が期待できるという面も持つ。^{[4][5][6]}

コワーキングが行われる環境（「コワーキングスペース」と呼ばれることもある）はシェアオフィスや[レンタルオフィス](#)とは異なり、実務を行う場所が個室ではなく図書館のようなオープンスペースとなっている。また、すべてのスペースを共有したり、イベントを行ったりといった試みを通して参加者同士のコミュニティ育成を重要視する傾向が強いことも大きな違いのひとつである。

わかりやすく言えば、図書館のようなオープンスペースだ

そして、多くの人々が、コワーキングスペースを利用するようになる

自分のプロジェクト

自分が関わるプロジェクト

その、仕事、作業などを行うためにだ

事務所などを賃貸する必要もなく、使いたい時に使う

みんなで使う

このワーキングスペースがインフラとして整備されれば

世の中は間違いなく活気に満ち溢れる

私はそう思っている

第七章 「想像力」「理解力」「創造力」

私はここまで 時代の変化と「パラレルキャリア」について話してきた

ここからは、「想像力」と「理解力」と「創造力」について話していこうと思う。

まず、私は私の世代、そうファミコン以降の世代は「想像力」を使うことを苦手になっているように思っている。

「いまでしょ」で有名になった、林先生もおっしゃっていました

今の子は想像力がないんです

と。

想像力は、

「臨機応変、機転」を生み出します

社会にでて、仕事をするようになると

この、「臨機応変、機転」がものすごく必要になる。

毎日、様々な出来事が起きる、毎日様々な人と関わる

お客さんだって、様々な方がいます

それにくらべて学校は

単調なものです

すべてを決められ、自分がそれをこなしていけばいい

そんな、学校という環境からいきなり社会という環境に変わった時

多くの方は、悩む

学校のように教えてもらえない

教えてもらっても、マニュアルを記憶しても

マニュアルの通用しないことのほうが多い

そして、先輩からは怒られる

自分なりに一生懸命やった

やろうとしたけど、何をしたいのかわからなかった

しかし、怒られる

怒らながら教えられ、ひとつ学ぶ

しかし、また教えてもらってないことが起きる

そして、また怒られる

想像力がないから、教えられたことしかできない

しかし、先輩は

「怒ったこと教えたことと同じようなことは、全部同じだと解釈している」

だから

「こないだ教えただろ」と怒る

怒られたほうは、「こないだ教えただろ」と言われて、初めて同じような対処をすればよかったんだと理解する

私がファミコン以降の世代、1977年前後以降の人はとくに想像力が低いのではないかと考えている

理由は（もちろん、これは全体的な話であり、私の勝手な考えです）

1983年に発売された、そうまさにファミリーコンピュータの影響があると思っているからだ。

1977年に生まれた方は1983年に6歳になり、小学生になる

この、小学生という一番なんでも吸収する時期に

ファミコンが登場したのだ

ファミコンはコンピューターなので、毎回同じだ

いろんなお客さんがくることもなければ、

あいまいなことは1つもないのだ

敵と戦うとしても、敵の強さは毎回同じ

そして

負けても、何度でも「リセット」できる

私はこの「リセット」こそが多くの人に「人生はゲームのように何度でもやりなおせる」と

潜在意識の根本に染み込ませるきっかけになったのではないかと考えている

そして、ファミコンのソフトが続々と発売される

さらに、ゲームボーイ

スーパーファミコン

パソコン

ポケベル

プレイステーション

携帯電話

これ以降、新しいものの数は計り知れない

2014年の現在まで、物凄いスピードで新しいものが世の中に登場してきた

そして、それは、今後さらに加速する

私は、この新しいものが生まれ続けたことが

まさに想像力の低下に直接関係があると思っている

なぜなら

想像力を使う時間がほとんどなかったからだと考えている

毎日毎日、新しい情報が入る

新しいモノに触れる

そうすると

それを

「理解」しなければならない

そう、「理解力」ばかりを使って生きてきたのだ

だから、想像力はないが、理解力はものすごく発達していると思っている

その証拠になるかどうか分からないが

高齢者の方や、年配の方、私達の世代の親などの自宅には

家族特有の工夫が見られると思う

そう、不便だなと思うと、工夫するのだ

これは、想像力がないとできないことだ

しかし

親やおじいちゃん、おばあちゃんに、スマートフォンなどを薦めると

「私はわからない」

と、はじめから理解しようとしな

私達のように、新しいものを理解することになれていないのではないだろうか

逆に、あるものを使って想像力を使い、工夫するのがうまい

私は、このような違いがあると考えている。

私達は、100円ショップに行き、雑貨屋に行き

なにげなく、商品を手取る

そうすると、それがなんのためのものかすぐに理解できる

そして、便利だな、なるほどなと思って購入する

それに比べて、年配の人達はどうか

普段の生活で、不便だなと感じれば自分で工夫し解決する

お店に向かうときは、必要なモノを買う時だ

このように、私はファミコンが登場した以降の人と、それ以前の人では

生きていく上で、主として使っている力が違うと考えている。

ファミコン以前の方は「想像力」を主として使い

ファミコン以降の方は「理解力」を主として使う

この、違いが

まさに、今の社会を創り出している原因だと思っている

そして、もう一つ付け加えておくと

とにかく、私達の世代は「白か黒をはっきりさせたがる思考」の人が多くにも思う。

だから、人の発言などに異常なまでに敏感で、ネットなどで口論したりする人も多い

私言っている、世代別の私の考えにも

おそらく、「みんながそうとは限らない」「ファミコン以降の世代にも想像力豊かな人はいる」

など言い出す人がいる

そんなことは、アタリマエであり

私は、全員がそうだとは言っていない

とにかく、このように

白か黒

正解か不正解か

で物事を理解しようとしすぎる傾向があるように私は思っている

だから、「臨機応変、機転」もきかない

「時と、場合による」

ということが、とにかく苦手な人が私の世代には多い

私はそう思っている

そして今、ファミコン以降の世代の人の多くが、社会に出始めた

その多くの人が悩んでいる

逆に、ファミコン以前の人が多くがファミコン以降の世代を部下に持つようになった

そして、同じように悩んでいる

しかし悩みは全然違う

すべてはここでは書けないが

私が最大の原因と考えているのが

ファミコン以降の世代には「リセット」という概念が備わったいるということだ
(もちろん全員ではない)

やり直し

というものが、潜在意識の根本まで染み込んでいる

だから、失敗したり、嫌なことがあれば

「辞める」

という選択をする

そして、やり直せばいいと考えている

そう、だから簡単に仕事をやめるのだ。

ファミコンのリセットボタンを押すかのように簡単にだ。

では、2014年の今日この世に生まれてきた人はいったいどんな人だろう

私は、その疑問にぶつかった

ファミコン以前の人

ファミコン以降の人

そして、それに対して今日生まれた人を私は「モバイル・インターネット」
以降の人と呼ぶことにした

そう、今日生まれた人は生まれた時から、モバイル・インターネットを使用するのだ。

いつでも、どこでもインターネットが使える

今、私はiPhoneを使っているがよく携帯と言ってしまう

そう、携帯電話と言ってしまう

私達は、携帯電話会社が始めた、インターネットサービスを利用するようになったわけだ

電話機能が大前提にあり、インターネットが使えるようになったと思っている

だから、私なんかは未だにスマートフォンを携帯電話と言ってしまう。

しかし、今日生まれた人達はどうかだろうか？

スマートフォン、iPhoneを携帯電話と呼ぶだろうか？

インターネットが使える、iPhoneという機械に電話機能が付いている

と解釈するのではないだろうか

この違いは、なんでもないようだが

私は大きな違いだと思っている

今日生まれた人は

インターネットというものは、自由に使えるものだ

そう思って、生きていくのではないだろうか。

私達は、ずっと携帯電話会社にお金を支払って使うもの

それがインターネットだと理解して生きていく

WiFiは無料で使えるモノもある

そして、LINEを使えば電話だってできるのだ

今日生まれた人からすれば、携帯電話の基本使用料がなんのためのものか理解するだけでも困難だと私は思う。

端末を購入すればいいだけなのに

高額な基本使用料を支払う

これを、今日生まれた方たちはどう思うだろうか。

今日生まれた人は間違いなく

「携帯電話」という概念ではなく、「携帯インターネット」という概念で生きていく

そして、この「携帯インターネット」そう、「モバイル・インターネット」の発達が生まれた人たちに新しい価値観を植え付けていくと私は思っている。

そう、ファミコンが私達に「リセット」という価値観を植えたようにだ

インターネットが発展し、ホームページとアプリケーションというものが登場した

そしてこの2つを、だれでも簡単に創れてしまう時代がやってきたのだ

しかも、ノートパソコン一台でだ。

しかも、無料のWiFiを使用し

ほとんどお金をかけずに創ることもできる

これが、私の言う、「みんながインターネットを使える時代」ということなのだ

そしてこれが、私達の「働き方」「生き方」に大きな変化をもたらす

2014年の今日以降生まれてくる人が、私達と同じような就職活動をするとは私には思えない

就職価値観そのものが違うだろう

そして、多くの人は自分で何かを創るという「価値観」をもつようになると考えている

なぜなら、子供の頃からモバイル・インターネットを使い

自分で様々なモノを創って遊んで大きくなるからだ

例えば、「動画編集」

アプリを使えば、様々なモノが自分で自由に創れる。

今日生まれてくる人達は、「創造」することを遊びにすることが
多くなると私は思っている

私の世代は、新しいものを「理解」して遊んできた。

1つ前の世代の人は、「想像」して工夫して遊んできた。

そう

2014年以降に生まれてくる人達は

「創造力」を主に使った生き方をする

要するに、「クリエイティブ」な生き方をする

私はそう考えている

そして、この創造力はすごい力だ

あらゆるものを理解する理解力と

それを、どう使うかを想像する想像力

この両方が必要だということだ

この両方をもち、さらに創造力をもった人達が今後

間違いなく活躍する時代がやってくる。

いや、もうすでに活躍し始めていると言えるのではないだろうか

アメリカのシリコンバレーの学生は、99%の学生が起業を考えるそうだ

現に、10代、20代前半の若い人が、革新的なモノを創造し大成功している例がいくつもある

日本は、遅れている

私は、そう思っている。

しかし、間違いなく日本でも今後、若い人たちがどんどん新しいモノを創造することになるだろう。

それも、10代という若さで世の中に名乗りを上げる人がどんどん現れる。

しかも、この創造力をもった人達のすごい所は

今までの私達の常識は全く通用しないということだ

こんな光景をみたことがあると思う

今、2歳にもなれば、スマートフォンを使いYouTubeの動画を見るようになる

しかも、自分で「アンパンマン」を見つけ出し

さらに、広告をスキップするというから驚きだ

そんな子たちが、スマートフォンを電話機だと思うだろうか？

いや、思わない。

小学校の教科書も、タブレットになるということだ

そう、ここでも「モバイル・インターネット」の登場だ

さらにはノートパソコンが生徒全員に支給されている地域もでてきているとのことだ。

「アンパンマン」の話に戻るが

なぜ、2才児がアンパンマンを見つけ出せるのか

それは、「想像力」を使っているからではないだろうか

字なんてもちろん習っていない

そして、おそらく

アンパンマンという音も理解していない

そして、2歳時にとって、音なんてものはどうでもいい話だということだ

「アンパンマン」という「絵」「デザイン」を記憶しているのだ

そして、「理解」しているのだ

そして、想像力を使って、動画再生まで辿り着く

「あらゆることを想像力を使い想像し、理解力を使い理解していく」

私達の常識では字も習っていないのに、なんで？

そう思うかもしれない

理解できないかもしれない

しかし、想像してみしてほしい

現に、字も理解していない子供が動画を再生し見ているのだ

「アンパンマン」とい文字を、「絵」「デザイン」と認識しているのだろうとは想像できないだろうか？

では、広告のスキップは？

たまたま、一回押したのだろう

そして、その時に学習した

そう、人類がたまたま「火」を発見した時のようにだ。

私は、2014年以降に生まれてくる人たちは

アタリマエに

パラレルキャリアという生き方をしている

いろんな人と繋がれるインターネット

いろんなことを知れるインターネット

様々なものに興味を持たないはずがないのである。

様々なことに興味をもつ人達にとって

パラレルキャリアはアタリマエのことなのだ。

1つのキャリアをもつことがアタリマエだった
ファミコン以前の世代の時代にはインターネットがなかった

そして、情報が少なかったのだ

さらには、今よりも仕事の種類も少ない

選択肢自体が少なかった

そして、インターネットの登場により、情報社会となり
新しい仕事がどんどん登場し
様々な情報をキャッチし、選択肢が増えた
私達、ファミコン以降の世代
そして「リセット」というようなゲーム感覚をもった私達

そんな、私達が社会に出てきた、まさに今
自分では気づいていないが、知らず知らずに「パラレルキャリア」を選択している人が増えてき
ているのでは
ないだろうか

そして、これから「モバイル・インターネット」以降の人達が社会にでてくる

彼らは「リセット」をアタリマエと思い、「モバイル・インターネット」をアタリマエに使いこ
なす、

さらに、多くの選択肢があるうえに、新しいものを創ることを得意とする

そんな彼らは、アタリマエに「パラレルキャリア」という生き方になるのではないだろうか。

そう、私はこれから生まれてくる人たちは間違いなく、色々なキャリアをもつようになると確信
している

パラレルキャリアという生き方がアタリマエになる日がやってくるのだ。

第八章 自分をアップデートする力

パラレルキャリアという生き方がアタリマエになる、21世紀に必要な力は1つだけだ

それは、「自分をアップデートする力」だ

ピーター・ドラッカーはこう言っている

「21世紀に重要視される唯一のスキルは、新しいものを学ぶスキルである。それ以外はすべて時間と共にすたれてゆく」

そう、これが私の言う「自分をアップデートする力」だ。

iPhoneや、アプリのアップデートばかりに気を取られてはいけない

一番大事な事は、自分自身のアップデートだと私は思う。

新しいものの本質を理解すること

それが、自分をアップデートするということだ。

自分をアップデートすることを恐れてはいけない

アップデートすると、変化する

変化を恐れている人が多い

むしろ、変化しないことを恐れないといけない時代だと私は思う。

もし今、ポケベルを使用していたらどうだろうか？

新しいものを否定的に見るよりも、これからは肯定的にポジティブに見ることが大事になってくる。

もし、この本を読むまで「パラレルキャリア」という概念を知らなかったら

この機会にダウンロードし、自分をアップデートしてみてほしい。

そして、難しく考えないことが大事だ。

掛け持ちで、アルバイトをしている人

これも、パラレルキャリアだと言える

そう、何もパラレルキャリアは特別なことではないのだ。

難しく考えないで、どんどん自分のプロジェクトを持とう

そして、興味のあるプロジェクトにどんどん関わろう。

「コミュニティ」

様々な、プロジェクトに関わるようになると

自然と、様々な「コミュニティ」に関わることになる

そうプロジェクトチームは1つのコミュニティなのだ

コミュニティとは、日本語で「共同体」である

このコミュニティが21世紀のキーワードの1つになる

コミュニティがなぜキーワードかというと

21世紀は、孤独な時代になると私は考えているからだ

インターネットが発達した今、さらにこれからロボットが登場する。

しかも、人工知能付きのロボットだ

そうなる、仕事のほとんどをロボットがやることになる

ロボット、人工知能、ハイテクノロジーの最近の進化の速度は脅威でしかない

自動車の自動運転はどんどん現実的なものになってきている

近い将来、ロボットが運転する日が来るのではないだろうか

その時は、タクシーやバスの運転手の仕事は必要なくなるのかも知れない。

さらに、あらゆる病気がなくなる方向に進んでいるようだ

病気になってから診断する医者とは少し違う、職業が必要になってきそうだ

とにかく、あらゆるものが機械によって、行われるようになる

さらに、その機械には人工知能がついていて、学習するようになるわけだ。

人間の仕事は今後、限りなく機械、ロボットにより奪われていくことになる。

さらには、携帯電話、メール、テレビ電話、人と会わなくても、連絡が取り合える

クラウドソーシングで仕事をすれば、さらに人と会う必要もなくなるだろう

買い物は、インターネット

食事はデリバリー

1人暮らしが当たりマエになり、家族もバラバラ

そう、孤独な人が間違いなく増えるということだ

そこで、孤独にならずに人と関わって楽しい人生を送るには

「コミュニティ」に属することが必要になってくる

世の中には様々な「コミュニティ」が存在する

そして、今後

パラレルキャリアという生き方をする人が増えれば

コミュニティはどんどん増えることになる。

この流れに、乗れなかった人はどんどん孤独になる

いくら、便利に物事を進めても

人との関わりなくして、人は幸せにはなれない

私はそう思っている。

パラレルキャリアをもつ人にとって、コワーキングスペースは間違いなく便利だといえる。

そして、便利以上にこのコワーキングスペースがコミュニティを育てる役割をする。

プロジェクトごとのコミュニティ

さらには、コワーキングスペースを利用する人のコミュニティ

このように、どんどんコミュニティが生まれていく

そして、この生まれたコミュニティは、コワーキングスペースにより

どんどん、育っていく

さらには、そこから派生したり、合体したりと

新しいコミュニティを生み出すための役割も果たすだろう。

そう、21世紀はこの「コワーキングスペース」なしにはありえないのだ。

助けあう時代、支えあう時代

私は、21世紀はそうなっていくと信じている

自転車も、車も最近ではレンタルやシェアできるものが増えてきている

使いたい時に使う

みんなで、共有する

それが、アタリマエになってきた

となると今後は

一人一人の協調性が重要視される時代になる。

そう、コミュニティでは助け合い、支えあうという

協調性が求められるのだ。

そして、協調性をもった人が、コミュニティのリーダーになっていく。

そこで、私はあることを最重要視している

それは

「道徳」だ

そして、その道徳の教育こそが私が21世紀に最も必要だと感じているモノだ

自由に働ける世の中が来る

みんなで、物を共有する時代がくる

それは、本当にいいことだと思っている

しかし、果たしてそれは本当に可能なのか？

私は、不安だ

それは、道徳心を養うための教育があまりにすくなすぎるからだ

今の社会には、損得で物事を判断する人が本当に多いように思う

テストの点をとることだけを追いかけさせた教育

その時よければいいという教育

その結果、目先の損得で物事を判断する

今の世の中は、そういう人が多いと私は思う

これが今後も続くようなら、私はかなり不安だ

私は、現在5つの会社を経営している

サラリーマンを経て、気づいたら経営者になっていた

そして、必要になった時に会社を創ってきた

気づけば、5つの会社になっていた

社員もそれなりに増えてきた

私は、社員研修を大事にしている

研修は社員みんなで休みをいただき

みんなで、遊びにいったり、文化を学ぶという研修内容だ

ただ、遊んでいる。

それだけだ。

香川県のある場所に80歳の人生の大先輩のおばあちゃんがいる

実のおばあちゃんではない

たまたま出会った、おばあちゃんだ

その方は、ずっと経営者という立場で仕事をしてきた方だ

そして

すごい経験をたくさんしてきている

さらには、幅広い教養をもっている

作法、茶道、俳句、など日本の文化はもちろん

様々なことを知恵として、もっている

私は、月に1回

香川県にあるおばあちゃんの自宅にみんなで行かせてもらい

おばあちゃんから、みんなで様々な事を学ばしてもらっている

みんなで茶道もする

茶道を始めてから、スタッフのみんなは段取りがうまくなってきた

そして、「品」がでてきたのだ

それが、接客やサービスに自然と繋がっている

スタッフの協調性、一人一人の仕事への思い

そして、自分の人生を大事にしようという思い

そういう、目には見えないものが気づかないうちにどんどん育っていく

しかし、やっていることは

ただ二日間、田舎でのんびりし、遊ぶ

私は釣りが好きなので、仲間と釣りをする。

浜辺で昼寝する仲間もいる

ただ、ぼーっとしている仲間もいる

おばあちゃんから様々なことを教えてもらう仲間もいれば

おばあちゃんと「貝合わせ」や「投扇興」「俳句」といった日本の昔の遊びをする仲間もいる

みんな、それぞれ好きなように過ごしている。

そんな、研修だ

そして、その研修を毎月休まず行っている

おかげさまで

何も経験のない20代のメンバーだけでスタートした会社は

現在順調に業績を伸ばしている。

私は、研修によりみんなで「道徳」を学んでいることが業績に繋がっていると考えている。

私は研修でみがんが知らず知らずのうちに「道徳心」を養っているのだと考えている

2日間、みんなで休めば人を何人か雇えるほどの金銭的な損をする

しかし、それは目先の損だ

研修に行っても、形に見える得は1つもない

むしろ、お金も結構かかる

しかし、私はこの研修を社員が何人になろうが続けると決めている。

毎年、海外旅行にも行っている

旅費は投資だ

みんなで、海外でセンスを磨こうぜ

そう言って、おもいきり遊ぶ

形には何も残らない

そして、お金は消えていく

しかし、もっと大事なものを得ることができる時間なのだ

道徳心を養うための時間

私はこう呼んでいる

たとえ勤務時間を使ったとしても、スタッフの道徳心が育ち、教養が磨かれれば

間違いなく、仕事のパフォーマンスは上がる。

私はこのように、21世紀は道徳が鍵を握っていると思っている。

道徳は、点数がつけにくい

その結果、自分が学べているのか、力がついているのかがわかりにくい

しかし

道徳の教育をもっと充実させるべきだと思う

そして、そう感じている方が、日本には大勢いらっしゃる

インターネットがこれだけ発達し、だれでも繋がれる時代になった

必ず、近いうちに教育革命が起きる

私はそう思っている

そして私もその時は、革命に出来る限りのことで参加するつもりでいる。

第十一章 世の中は変化する

この本をいつ読んでいただいているかはわからない

しかし、私がこの本を書いている今日3月20日から間違いなく

世の中は、変化している

あの、アタリマエに見ていた「笑っていいとも」もあと数回でついに幕を閉じる。

時代の変化とともに、古くなったものは消えていく。

これは、いままでもずっと繰り返されていたこと

そして、今後も続く

そのスピードがどんどん早くなっているということだ

今の日本の社会の仕組みのままでは、多くの人が大変な思いをする

企業は生き残るために、変化を続け新しいものを世の中に生み出し続ける

さらに、新しい世代の人間たちが今までの常識をまったく気にせず

革新的なものを生み出す

そして、そんな新しい世代は新しい仕事で新しいお金の稼ぎ方をする

それにともない、世の中はどんどん変化していく

しかし、日本の社会の仕組みだけはなかなか変化しない

社会の仕組みを考え、
形にすることの先頭に立つ政治家達を国民は
信頼しているのだろうか

そんな、政治家達が社会を賑わす時は、大抵ろくなことではない、しかも
子供の言い訳でも、もっとまじな言い訳をするぞと言いたくなるような
言い訳をする

そんな人達がこのスピード感ある時代に社会の仕組みを合わせていくことなんて
できるとはまったく思えない。

そんな、人達に期待して待つて

不満を言っているよりも

まず、自分を変化させることだ

自分自身を変化させれない人は、間違いなくこの先大変な思いをすることになる

社会の仕組みの変化を待っているのは危険だ

社会の仕組みの変化に期待するのではなく

自分自身を高める努力をする

多くのキャリアを持てるように、スキルを磨く

そして、コミュニティに参加し、人と関わること

要するに自分をアップデートし続ける他ないのだ

そして、

それができない人は、間違いなく苦しい思いをすることになる。

変化を恐れないことだ、変化しないことを恐れるべきだ

変わってないということが危険なのである

なぜなら、世の中は物凄いスピードで変わるからだ。

21世紀はパラレルキャリアの時代になる

キーワードは

クラウドソーシング

クラウドファンディング

コワーキングスペース

そして、道徳

そして、今年2014年は「革命元年」となる

私は、私にできることをする

世の中のためになると、思えることを全力で行う

私が今、一番必要だと思っているモノ

それはキーワードとなるモノがすべて一箇所で学べ、

しかも、実践的でかつ安価で学べる環境

そうパラレルキャリアスクールだ。

今日、生まれてくる人には必要ないかも知れない

しかし

私の世代や、20世紀に生まれた世代の人には必ず必要だと私は思っている。

この、「パラレルキャリアスクール」こそが

世の中の要望だと私は確信している。